

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774600726		
法人名	(株)カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから柏原		
所在地	大阪府柏原市堂島町2番地14号		
自己評価作成日	平成22年5月5日	評価結果市町村受理日	平成22年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774600726&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8親和ビル4階		
訪問調査日	平成22年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員は同じ生活者とし喜怒哀楽を共に感じ共有しながら日々の生活を送っている。スタッフは入居者に寄り添い支援を行うよう常に心がけている。近隣への散歩や足湯・買い物や遠足と外出の機会を設け気分転換が図れるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理専任(非常勤)2人を配置することで、美味しい食事への配慮が行き届くほか、介護職が余裕を持って生活支援に当たることができるようだ。遠隔だが往診専門医との連携は重宝化する利用者とその家族、職員にとっても安心の大きな要素となっている。「普通のことが普通にできる、グループホームだからできる」を目指し、現況のサービス提供に満足することなく、自己評価を厳しく捉える姿勢は利用者や家族にとって信頼と安心に繋がるであろうと期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念を唱和し実践につなげていけるように努めている。	利用者とホームへの理解、ホームがもつ能力を地域に提供することが共助の社会へ繋がることを再認識した取り組みに向けて努力したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(地蔵盆)等に参加している。ホームの行事(夏祭り)等に地域の方に参加していただけるように呼びかけているが日常的な交流は図れていない。	地域行事やホーム行事、ボランティア導入などでの交流はあるが、地域家族等からの身近な相談所となるような交流は少ない。	職員が地域とつながり、職員を通じて利用者が地域と馴染み、地域の人から事業所に声が掛かる関係の構築をめざしての努力を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。 今後、地域の方との勉強会を行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。 地域代表・ご家族の方に参加してもらいご意見をスタッフで共有し改善できるように努めている。	開催期、構成員、会議内容は概ね順当であり、民生委員からの情報等も活かされているが、サービス向上に活かされるほどの積極的な提言・意見等は少ない。	構成員にボランティアや地域住民を招聘するなど、推進会議の活性化にむけての工夫・努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議・事故報告時に助言をもらっている。	市が主催のグループホーム連絡会に参加、その他必要に応じての連絡・協力体制は保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んではいるが、ホームでの勉強会・研修への参加が出来ていないので今後、積極的に参加し理解を深めていけるよう努めていきたい。	身体拘束が何故いけないのか、特に認知症高齢者への対応についての基礎的な認識が共有できていないようだ。	利用者の尊厳にも繋がる最も基本的な課題である。ミーティングの機会を活かすなど、事業所あげでの取り組みを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んではいるが、ホームでの勉強会・研修への参加が出来ていないので今後、積極的に参加し理解を深めていけるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している入居者の方がいたが、制度について理解を出来ていないスタッフもいるのでホームでの勉強会・研修へ参加し理解を深められるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行っている。その都度、理解・納得が得られるまで説明を行い努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りや会議の場を設け、話し合う機会を設けている。十分に反映できるように取り組んでいきたい。	記録に残すほどの意見・要望はないが、日常支援での気付き・家族訪問時の面談に留意して改善につなげたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議の場やその都度、聞けるように努力はしているが、今まで以上に努力が必要と感じている。	介護経験のある新入職員等の意見や日常的な会話などからの意見を活かし、管理者による法人の週報告会への提言も併せて行い、改善に努めたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの状況を把握し努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外・法人の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで以上に取り組みが必要と感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の声かけ・コミュニケーションを通して職員はホームに馴染んでもらえるように信頼関係が築けるように努めている。体験入居を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までに他のサービスを利用した事はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフのペースではなく入居者の方のペースに合わせて日々を送るように努めている。個々の個性を大切にどのように対応をすればいいのか、感じ考えながら関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に生活状況等を説明・相談を行いながら家族の方の意向を尊重し努力をしているが、理解を得れない事があるので改善に努めていく必要があると感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の散歩や買い物などを行っている。家族の方との時間が過ごせるように配慮し努めているが個々のニーズに合わせては十分な支援ができていないの努力を行ってきたい。	生活歴や家族関係に配慮しつつ、馴染みの継続とホームでつくられる新しい馴染みが深められるよう支援したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは把握し常に支援を行っている。入居者同士が協力し合える支えあえる環境作りに努めて支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭りの案内を送付し努力はしているが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握する為、日々のコミュニケーションや関わりの時間を大切に日々を送っている。	「心でつながり、心で支え合う」を基本に、些細なやりたい・できる・できないの思いを汲み取り、その人らしい暮らしを支えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方への情報収集や入居者の方との談話を通して収集し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めているが一人ひとりのニーズにこたえられるように努めていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い努めているが充実が図れるように努力をしていきたい。	モニタリングとカンファレンスの関係性を理解し活かして、利用者・家族の思いに応える介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録で共有できるように努め、話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や入退院・入院中の付き添いなどを行い、家族の方や本人の負担軽減が図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時にボランティアの方に参加してもらい支援に努めているが、一人ひとりのニーズに合わせては行えていないので努力をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	細かな対応が出来るように努めている。	医療連携体制を採り、在宅往診医との連携もあって健康管理、医療対応については利用者・家族の安心を得ていると観察する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に情報交換を蜜に行い柔軟に対応が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・家族・スタッフと共に話し合い意向を尊重し支援に取り組んでいる。	疾患のある利用者も含め、入居時の話し合いはある。往診医・職員・家族との話し合いで入院を切り上げての対応経験は、家族との信頼も得て今後への取り組みについてのよい機会となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や救命講習を受けるなど努力はしているが、不安を抱えているスタッフもいるので今後、実践で生かせるように努力する必要があると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っているがホーム独自である。地域の方の協力を得て訓練は行っていない。今後、行っていきえるように取り組んで行きたい。	住宅地の一角に位置するホームだが、災害時、また避難訓練に近隣の支援は得られにくい状況にあるようだ。	散歩コースにある避難所となるグラウンドの確認、近在の消防署支所へ入居者状況の情報を定期的に伝えるなどの対策も考慮することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応に心がけている。	ともに暮らすことからくる馴れや親しさに油断することなく、節度ある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、本人の思いを大切に支援を行っている。自己決定が出来るように働きかけているが重度化や集団生活の為、十分ではないと感じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースではなく入居者のペースで過ごせるように支援に努めている。一人ひとりのペースで支援を行えていないところもあるので努力していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや髪の毛の乱れ、服装に気配りを行い支援できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・後片付けを入居者の方に行ってもらっている。外食に出かけるなど支援に努めている。全スタッフが行えるように努めて行きたい。	安心かつ安全に食べることが出来る食事環境が整えられ、和やかな食事風景である。調理専任の職員から食材業者への注意・注文も積極的になされ、美味しい食事を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分・食事摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。必要であれば往診歯科の診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、残存機能を使っでの支援を行うように努力しているが介助時間が同じ時間になっているので一人ひとりの介助に努めて行きたい。	目に見える、耳に聞こえる尿意・便意に的確に対応する感性と技術を向上させ、プライバシーにも十分配慮した排泄介助をおこないたいと努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前は食物繊維を取り入れていたが効力がなく、中止し現在は腹部マッサージと下剤での調整となっているので取り組んでいくように心がけたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り一人ひとりのタイミング・意思を尊重し支援するように心がけている。	週3回を基本とし、希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを大切に支援するよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容等の説明書を閲覧できるようにしているが全てのスタッフは理解が出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、一人ひとりの役割や特技を大切に支援を行っているが十分ではない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩・遠足に出かけているが一人ひとりその日のニーズに合わせた支援はできていない。	季節・天候・心身の状況に合わせた外出支援はある。職員主導でない個別外出への対応にむけて努力したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが絶えなかった為、現在は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やり取りができるように支援を行い。入居者自身が作成した年賀状を送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を行い清潔な環境であるように努めている。季節を感じてもらえるようにカレンダー作り等を行っている。	通風・採光ともに申し分のない居住性に、適度な装飾が施された食堂と寛ぎスペースが清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て努力している。	男女の差はあるが生活歴や趣味、家族の計らいによる持込物で、夫々の居場所が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫を行っている		